

石狩浜、いちばん多い巻貝は？

石狩川の河口から小樽市銭函までつづく砂浜海岸、石狩浜。浜を歩いてみて、巻貝を見つけたことはありますか？

実際に探してみればわかりますが、石狩浜で見つかる貝のほとんどは、ホッキガイ（ウバガイ）やシジミなどの二枚貝で、巻貝はめったに見つかりません。なぜでしょうか？

二枚貝のほとんどは海底の砂や泥に潜って暮らしているのに対し、多くの巻貝は、岩の上を這って移動したり、じっと張り付いたりして暮らしています。石狩浜周辺は長さ25kmもの砂浜海岸がつづき、岩場がないため、巻貝はあまり生息していません。

さて、巻貝というと北海道ではツブ、本州ではサザエを思い浮かべる人が多いと思いますが、じゃあ石狩浜で、少ないなりに一番多く見つける巻貝は、何だと思えますか？

実は、カタツムリです。

そう、あの森で葉っぱにくっついている“でんでんむし”。巻いた殻を見ればわかるように、彼らも立派な巻貝の仲間。石狩浜の波打ち際には、エゾマイマイ（図1）やヒメマイマイ（図2）というカタツムリの貝殻が、ときどき見つかるのです。

海岸なのに、カタツムリ？ 不思議に思いかもしれません。もちろん2種とも陸上で生活する陸生貝（図3）なので、水中、しかも海水で、生きていけるはずがありません。これらの貝殻は、石狩川から海へ流されてきたものなのです。砂浜でも河口に近いほど多く見つかること、貝殻といっしょに落ち葉や枯れ枝など、陸上から川を通じて流されてきたものがたくさん落ちていること、春の雪解け時期や秋の大雨で川が増水した後によく見つかることが、その証拠。草木やコンクリートの

上を這っていたカタツムリが、うっかり川に流されてしまったんでしょうか。

小さな巻貝の殻ですが、どんな種類か、どこから来たのかをちょっと考えてみれば、数十km、数百kmに広がる森と川、海につながりに気づくことができます。

（志賀健司）



図2.ヒメマイマイ



図1.エゾマイマイ



図3.陸上のエゾマイマイ



図4. 石狩浜の中でも石狩川河口に近いところで、カタツムリの殻がよく見つかります。



学芸員
志賀健司
Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

★4/26(土)～6/15(日)
いしかり砂丘の風資料館 テーマ展
「石狩の巻貝」

※詳細は20ページをご覧ください

文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館